事例No.	3240
公表年度	R6
団体の属性	都道府県
団体名	富山県

事例区分	行政改革

タグ	・人材確保・育成

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

建設業の魅力発信と担い手確保に向けた取組

出典

地方公務員月報2024年12月号（グラビア）

技術職員の確保に関する取組

建設業の魅力発信と担い手確保に向けた取組

富山県土木部
建設技術企画課・管理課







1. 富山をTSUKURU

社会資本の整備、維持更新の「担い手」であり、災害時の対応や除雪といった地域の「守り手」となる県内建設企業が将来にわたり地域で活躍していただくためには、人材確保・定着のための取り組みが重要です。富山県では、より一層の魅力発信・PRを目的としてウェブサイト「富山をTSUKURU」を令和六年三月に開設しました。

このウェブサイトでは、学生リポーターが現場での生の声やリアルな仕事風景を取材して、建設業界の仕事内容や魅力、やりがいなどを紹介しています。

また、土木を学ぶことができる県内学校の紹介や建設業の就職関連情報も掲載しており、土木について深く知りたい、働いてみたいと考えている方には必見の内容となっています。

さらには、県土木部から毎年発行している事業紹介パンフレット「とやまの土木」や、富山県総合土木職のキャリアイメージを持っていただくために作成したPR動画を掲載しています。

サイトはまだスタートしたばかりですが、今後もさらなるコンテンツ充実と改良を続けていきたいと考えています。



↑工事現場見学の様子
（新湊漁港災害復旧）

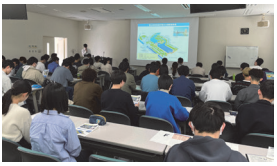


↑工事現場見学の様子
（高岡環状線道路改築）

↓富山大学での出前講義
（まちなか講義）の様子



↓富山県立大学での出前講義の様子



2. 県庁技術職員の確保に向けた取組み

本県では、県内大学の学生に土木行政への理解を深めてもらうとともに、土木系技術職員の仕事の魅力を伝えるため、令和四年度から、県内大学の工学系学部と連携した出前講義や公共土木工事現場の見学会を実施しています。

令和六年度は、富山県立大学の学生を対象に、県の技術職員が講師となり、県の土木事業の歴史を紹介する講義を実施したほか、県発注の道路高架化事業や漁港施設の災害復旧など、実際に作業が行われている公共工事現場を見学しました。

また、富山大学の学生を対象に、県が主体的に取り組む富山駅周辺整備の概要（連続立体交差事業）や、道路行政のあらまし（道路整備の役割や課題）についての講義を行いました。

参加者からは「目に見えない基礎工事の重要性が分かった」「自分が設計に関わった道路や施設に誇りを持てそう」といった声があり、社会資本整備の役割について理解を深めてもらうとともに、土木系技術職員の業務のやりがいを感じてもらう良い機会となりました。

近年の技術人材不足により、土木行政に携わる技術職員の確保が課題となっています。そのため、職場や現場を見学する職場体験セミナーや、若手職員との座談会を盛り込んだオープンセミナーの開催、インターンシップの受入れなどにも取り組んでいるところであり、今後も、県職員ならではの技術職の魅力や働きがいなどを積極的にアピールしていきたいと考えています。




ミニバックホウの展示


職人体験


ペーパーブリッジ工作体験

3．けんせつ×テックフェス2024

県では、若い世代に建設業の魅力を発信し、建設業の仕事に興味を持ってもらうため、大好評だった昨年度に引き続き「けんせつ×テックフェス２０２４」を開催しました。

建設業団体と連携し、四足歩行ロボットの実演や職人体験のほか、高校生による吹奏楽の演奏や書道パフォーマンスなど多彩なプログラムを用意したところ、当日は延べ約六五〇〇人の来場があり、多くのブースで大盛況となりました。また、今年度は新たに、県内高校（土木系学科）在学生による距離当てクイズや学校紹介も行われました。

参加者からは、「建設業の楽しさを体感できた」、「建設業が日々の暮らしを支えていることがわかり、働いてみたいと思った」など、ポジティブな意見を多くいただくことができました。

今後も、建設業界の皆様と協力し、建設業のイメージアップ及び人材確保に向けた取組みを進めていきたいと考えています。